

第16回世界労働安全衛生会議に参加して

労働衛生コンサルタント 山 室 栄 三

1. は じ め に

3年に1度開催される世界労働安全衛生会議に初めて出席したので概要を報告する。

1993年に第13回会議がアジアで初めてニューデリーで開催され、それ以降マドリッド、サンパウロ、そして今年5月26日から5月31日までオーストリア ウィーンで第16回が開催された。今回の主催者は従来と同じILO（国際労働機構）、ISSA（国際社会保障協会）そしてオーストリア連邦社会保障研究所とオーストリア労働者補償機構の共催である。

今回の会議には世界83カ国より参加があり、参加者総数は約2500人であった。この内口演発表者は約290人、ポスターセッション参加者は約300人、

フィルムマルチメディアフェスティバル発表件数126件であった。日本からの参加者は厚生労働省、研究機関、労働組合、企業、大学、災害防止団体、労働安全・衛生コンサルタントなどの36人で、基調講演、ラウンドテーブル、分科会、ワークショップでの口演発表者は11名、ポスターセッション発表者は3名であった。各国、各種国際機関からの参加者は57人であり、この中にはILOで活躍する2名の日本人も含まれている。さらに特筆すべきこととして、今回の開催国オーストリアからの参加者は配布された参加者リストによれば825人にも及びいかに同国の行政、安全衛生機関、企業が力を入れていたかが分かる。

今回私は中央労働災害防止協会の視察団のメンバー25名の一員として参加した。特にこの中で5

表1 プログラムの概要と発表件数、日程

5月27日	全体会議	A	変わりゆく世界の労働	10件
5月27日	分科会	A 1	新しい技術、労働組織の新しい形態	9件
5月27日	分科会	A 2	職場における健康への新しいチャレンジ	10件
5月27日	分科会	A 3	ストレスと暴力—評価と管理のやり方	9件
5月28日	分科会	B	労働災害防止の手法、手順、手段	1件
5月28日	分科会	B 1	リスク分析、その結果と実行	20件
5月28日	分科会	B 2	今日における資格の概念と労働災害防止	7件
5月28日	分科会	B 3	情報と伝達	14件
5月29日	分科会	B 4	労働災害防止の経済学	10件
5月29日	分科会	B 5	労働災害防止におけるマネジメント・システム	17件
5月30日	分科会	C	労働災害防止の制度的、政治的状況	25件
5月29/30日	分科会	D	中小企業における労働災害防止	24件
5月29/30日	分科会	E	開発途上国における労働災害防止	16件
5月31日	ワークショップ		9 プログラム	69件
Total				241件



会場のオーストリアセンターの正面

名も労働安全・衛生コンサルタントが参加しており、日本のコンサルタントもいよいよ世界の安全衛生に目を向け始めた証でもあるように見えた。

2. テーマとプログラム概要

今回のテーマは「変革と災害予防」のメインテーマとサブテーマで、口演発表（全体会議、分科会、ワークショップ、ラウンドテーブル）、ポスターセッション、口演者質疑応答セッション、フィルムマルチメディアフェスティバルなどの分野に分かれて開催された。プログラムの概要と発表件数、日程は表1のとおりである。

3. IT 会議

会議の発表レポートは、発表者全員アブストラクトを昨年提出したが、この内容は会議の web site ホームページに紹介された。これらは url アドレス：www.safety2002.at で誰でも見ることができる。また、公式レポートは1月末までに英文で提出要請がされた。しかしながら発表当日、講演集のようなペーパーは一切配布されず、全て登録時にもらう CD-ROM に入れている。PDF で加工され、公式言語4カ国語別にはいつている。発表者名リスト、プログラム別に検索でき氏名をクリックするとその人のレポートが見れるようになっている。このような方式は今回からで、重い講演集を持ち運ぶする必要がない。IT 技術を駆使した情報集約と提供は十二分であった。

また、発表者は大型スクリーンにパソコンファ

イルからプロジェクターにより、投影する方式でパワーポイントを使用しての発表資料の作成が指定された。

4. 国連都市とエジソン

会場は UNO シティと呼ばれる1979年に完成した国連や国際機関などの関係施設が周囲にあるオーストリアセンターウィーンで行われた。ドナウ川を渡り、地下鉄ウィーンインターナショナルセンター駅を降りるとここだけがウィーンの街とは違った雰囲気、ここはウィーンであったかと一瞬錯覚するほど建物の外観が様変わりする。ウィーンの街並みはどこを切り取っても16世紀から19世紀までのバロックとゴシック建築を主とした装飾に富んだ華やかさで目を楽しませてくれたが、ここは現代建築の無機質さとデザインが目立った。ニューヨーク、ジュネーブに次ぐ第3の国連都市だけあって未来都市の感があつた。

一方ホテルは市の西部にあり、地下鉄 U 1 ラインからカールスプラッツで乗り換え、U 4 ラインでヘイツリングまで約30分で下車、徒歩2分のところにある。このホテルは団体向けのものではあったが、なんと100年前にあのエジソンがアメリカからやってきて、すぐ近くにあるマリア・テレジアの離宮であったシェーンブルン宮殿の照明工事をやるために滞在したホテルという。ウィーンの街はどこにいても歴史の真只中に身を置いているようなもので、まるで歴史年表の中に飛び込んだようであった。

5. 発表テーマ分類

メイン、サブテーマを口演者のテーマからさらに細かく分類してみると、世界でどんな項目が問題となっているか、関心項目が何かがおぼろげながら見えてくると思われる。

独断でテーマを分類してみると、最も多い項目が「中小企業関連」37件のテーマで、今回初めて中小企業向けワークショップが設けられたこともあり、いずれの国も事故多発の傾向があることから対策に力をいれる必要性を伺わせる。次項目と



全体会議の会場風景

しては「リスク分析・評価」24件であり、安全衛生対策を立てるにしてもまずリスクの特定をしてからという自主的なアプローチが定着しつつあると見られる。さらに「途上国の安全衛生」17件で以下「ストレス」15件、「人間工学・筋骨格系障害・腰痛」14件、「新安全衛生対策・計画」10件、「OSHMS・監査・統合・認証」9件、「情報・IT・遠隔教育」12件、が上位に挙げられる。コンピューターを使った情報提供と遠隔教育の浸透、その結果として人間工学・筋骨格系障害の発生と予防対策が必要となってきた。さらにどの職種ということではなく労働者全般についてストレスが高まっていることへの対策が望まれる。新技術・新労働形態に対するこれからの安全衛生対策が関心を持たれてくるため、新たな安全衛生対策や計画が必要となってくる。他は「騒音」7件、「農業」7件、「教育トレーニング」7件、「公的サービス・補償・法」7件、「健康管理・労働衛生」7件、「産業医学」6件、「コミュニケーション」6件、「生物学的・作業モニタリング」6件、「監督と管理責任」5件に分類された。全261項目中196項目75%が上記5件以上の発表テーマの17テーマに集約できる。これらが世界各地で関心の高い項目ということになるであろう。

フィルムマルチメディアフェスティバルは27日から30日まで行われた。市販品も含め、安全衛生教材としてデモンストレーションがあった。ビデオとマルチメディアのCD-ROM 登録項目と件数は次のとおりである。「マネジメントと組織83件」

「産業医学42件」「新技術12件」「火災・爆発と主要事故20件」「物理的危険51件」「生物的危険24件」「安全・衛生・作業環境102件」「支店・支社47件」「化学安全27件」「電気安全9件」「機械危険・輸送30件」「人間工学38件」で登録総件数は485件であった。

6. 全体会議

全体会議では、中災防の招聘で日本にもなじみのあるILOのタカラ安全衛生部長が「ディセントワーク・セーフワーク」のテーマで基調講演があったので紹介したい。

- 1) 「Decent Work」はファン・ソマビア事務局長が1999年のILO総会で発表したILOが世界に向けて示した新しい理念である。簡単な表現では「働く価値のある仕事」といった意味合いだが、その背景には「権利が保護され、十分な収入を生み、適切な社会的保護が供与された、生産的な仕事」として位置づけられている。
- 2) ILOの試算によれば世界で年間2億5千万件の事故が発生し、重大事故は33万件、職業病は1億6千万件が発生している。そして労働事故と疾病の経済損失コストは急激に増加しており、世界GDPの4%に等しい。そして1990年の業務関連死亡者数の推定は110万人としている。2002年には何件になるだろうか。
- 3) 死亡、重大障害、疾病は労働災害、通勤災害、業務関連疾病が原因となっている。また、ILOによれば、最近の災害の構成比は1：2400：5000：70000とし、1件の重大災害には2400件の休業災害と5000件の赤チン災害、7万件のヒヤリ・ハットが発生している。まだまだ潜在危険が多いことを示している。
- 4) 「Decent Work」は基本的に「安全作業」でなければならない。
- 5) 先進国、開発途上国が取り組むべき課題は次のとおりである。

先進国の優先課題



分科会で発表する筆者

ストレス，心理要因，過重労働，配分
作業環境とマネジメント，高齢労働者問
題，業務維持能力

知る権利，知らされる権利，有害情報
化学物質，発癌物質，アスベスト
人間工学，反復業務と筋骨格格系障害
組織的，安全衛生マネジメント
予防的労働衛生サービス，健康増進
新技術

開発途上国の優先課題

農業従事者（全労働力の2/3），業務関
連問題
他の有害部門，鉱業，建設，漁業，林業
産業災害と火災
従来型事故と安全問題，清掃と生産性
職業病，塵肺除去の世界的プログラム
児童労働の廃絶

技術移転

- 6) 業務関連疾病別の発生コストを比較すると，筋骨格格系障害が40%を占めて一位であり，以下心臓疾患16%，事故による障害14%，呼吸器障害9%と続いている。
- 7) 他は，ILOの業績についての紹介で条約やコード，ガイドの案内，出版，化学物質の統一ラベルなどの紹介があった。
- 8) 今後のILOの目標・指針は下記のとおりである。

スタンダードの適用と批准

国家 safe work プログラム，国家的プ
ロファイル，機構とサービス
ILO コードやガイドの適用
新しい統計ツール，情報システム，情報
センターの適用
最新検査方法の適用
リソースの移転

7. 発表

筆者の発表は8年間に渡る約17000名のVDT
作業者の自覚症状の訴え率の変化によりVDT作
業がどんな影響を与えているのかを調査したもの
と，外部からホームページにアクセスのあったア
ンケート結果によるVDT作業者の周囲の作業環
境と自覚症状の訴え率の関係を調べ，一定の
VDT作業環境の整備は関係する自覚症状の軽減
に効果があるという結果になった。さらにこれら
の自覚症状の予防の観点から全世界の社員向けに
開発した人間工学の基礎のウェブページを使用し
た遠隔教育プログラムを紹介した。

発表当日の朝，スピーカーズルームへ行きディ
スクに入れたファイルをパソコンに入れてもらっ
た。心配は同じパワーポイントのバージョンでも
文字化け，行の移動などが生じていないかだった
が1ページずつ確認すると案の定表の行がずれて
いた。ここウイーンのPCのキーボードは当然な
がらドイツ語の表示であり，どのキーがどれだっ
たかわからなくなってしまったが，アルバイトの
学生に教えてもらい無事修正保存し発表に臨んだ。

ILO関係者によれば，一人の発表持ち時間10
分間は次のようないきさつで決まったようである。
発表を聞いても一度に頭に入る内容は3項目が限
度と言われているので1発表は3ポイントに絞っ
て発表するのがよいであろう。3ポイントはいく
ら長くしゃべってもきりがないであろうから，10
分間しゃべれば十分言い尽くせるであろうとい
うことであった。また，フロアからの質疑応答時
間がとってないのは，この会議の性格上，政労使の
3グループの構成となり，発表の内容によっては
異なった立場により，紛糾することも懸念して発



市庁舎で行われたナショナルイブニング

表後別室での質疑となっているようである。私の場合、別室には3人が訪れ質問があった。

8. ナショナルイブニング

5月30日は、シティホールでレセプションが開催された。会議参加者は招待者1名を同行できるのだが、当然ながら一人で行くしかない。初めての参加でどんなものか興味深々でいった。夜は今の時期9時を過ぎないと暗くならないので7時はまだ太陽が照らしていて暑くさへ感じた。シティホールは19世紀に完成した石造りの重厚な107mの塔がそびえる堂々たる建物であった。1階の回廊に囲まれた中庭に TENT を張った会場と、2階のいくつかの部屋が用意されていたがどの会場も満席の盛況で、歌、演奏、踊りなどのエンタティメントとバイキングスタイルのディナーが用意されていた。メニューはウィーンのレストランでのそれよりも種類が豊富で味もよかった。テーブルではドイツ・シュツットガルト市長一行と同席になり歓談した。これらが延々と地下鉄の終電がなくなる前までの0時15分まで続いた。さすが最後まで付き合い切れず途中で退散した。

ここではすばらしい照明の魔術に魅了された。回廊の天井や壁に向けて赤、青、黄、オレンジなどの投光機の光の束が石の表面に反射あるいは吸収されて柔らかな色合いを醸し出しパーティの雰囲気やムードあるものに高めていた。石と光の相乗効果がこんなにもよく現れているのは初めて見た。またそれを演出する機材がしっかりと

そろっているのにも感心しきりであった。歴史と芸術の街ならではの演出であった。

9. ポスターセッション

産衛学会でもおなじみのポスターセッションは思い思いのフォームで掲示板に貼り付けて質問者や読者があらわれるのを待ち構えている。face to face で納得するまで質問ができるので、興味のあるコーナーのみを回るのが効率よくみれることになる。同時通訳がないにもかかわらず会場にすっかり溶け込んで英語、ドイツ語のディスカッションがあちこちで活発に行われていた。

10. ウィーン異聞

会議の合間をぬってウィーンの街に繰り出す手段は地下鉄である。ウィーンの最も印象に残った物の一つは地下鉄改札システムで一定期間のチケットを購入すればその期間は乗り放題となる。最初にホームに入るときに日付を刻印し以降はそのチケットを携帯するだけでよい。駅員がいらないため、乗り降りするたびに見せたり入れたりする必要は一切なく、悪くすればチケットを買わずに地下鉄に乗降できることになる。こんな人達のために車内で時々検札があるが1年に2回ほどしか遭遇していないという。不正乗車が見つかった場合は30倍ほどの罰金を支払わされるという。これで赤字になっていないのかと聞くとそんなニュースは聞いたことがないという。ウィーン市は性善説に基づいてこの粋なシステムを導入し市民も市の計らいに十分に答えているのかなと感心していた。

ところが別の日に別の人から聞くと、市が市民のために2ユーロで駅で自転車を貸し出し、自由に乗ってどの駅にでも返却すれば2ユーロが戻ってくるというこれも粋な無料自転車貸出制度をスタートしたのだがなんと3日とたたない内にすべての自転車がなくなってしまったという。

残念ながら性善説準拠説は却下されてしまった。結局は監査のあるシステムとそうでないシステムの違いなのであろうか。どの分野においても監査の必要性を痛感した次第である。

海外情報

しかし、チケットを買ったり改札を通す必要がないのは、乗客にとっては誠に快適であった。

11. 感想

初めて世界会議に参加したが、各国の参加者の熱意は強いものがあった。国際機関は世界の通用するプログラムの開発と展開に力を入れ、研究機関は重点的に中小企業に対する指導を行っていた。

私はVDTと人間工学について快適性と生産性を向上させるためにはどうすればよいか発表した。筋骨格系の障害は日本ではそんなに問題にはなっていないが、ILOでの試算でも疾病別損失コストの第一にあげられ、全体の40%も占めている。また、ILOの検討した先進国の取り組むべき優先課題の中にもあげられており、アメリカなど一部の国だけの問題ではなく、世界での関心事項となっている。

今やオフィスのホワイトカラー全員がOA機器を使用した業務となっており、さらにテレワーカーや在宅勤務者の増加がOA機器の使用により、筋骨格系障害や自覚症状の増加を懸念させる。これからの取り組みがますます重大になり、防止効果を発揮することが望まれる。

OSHMSについては、各社それぞれが実施した経過を発表していたが、世界規模で見れば、認証制度への移行や、統合などへの大きなうねりとまではなっていない状況のようであった。

「変革と防止」という今日的な直接的に訴えるテーマで世界的な各分野での変化を認識し、受け入れた上で、災害防止にはどうすればよいかを討論した5日間であったように思う。この会議の3年後のテーマを考えることが、すなわち3年後の世界の安全衛生の分野は何が関心事となっている

か、を予想することであり、KYTさらにリスクの事前評価の手法の定着により、さらに拡大し、大きく展開する安全衛生の分野でも将来予測の見方がこれからは必要と感じた。

12. 終わりに

今回参加して多くの団員の方々と知り合う機会ができた。また、外国の方々と質疑応答などで交流も芽生えてくることになる。これらの人々との連携と交流は大きな財産になると思う。また、日々企業に対して安全衛生指導を実践しているコンサルタントは、災害防止に貢献しており、その成果をこのような会議に参加して発表すれば、実務をベースとした内容が豊富で具体的であるため、必ずや会場の共感と賛同を得るであろう。

会場ではIT技術が遺憾なく発揮されていたように思う。我々コンサルタントもクライアントへの説明や研修においてパソコン、プロジェクターを駆使して発表し、わかりやすい説得力ある工夫をすれば満足度もさらに向上するのではないだろうか。そして当会としてもIT機器の貸し出しや、パワーポイント、会員のホームページ開設などのIT研修会を開催しコンサルタントの業務に役立つようにすれば、これらを利用して世界との交流も一段と活発になるのではないだろうか。

次回2005年は、アメリカ・フロリダ州オーランドで開催される。世界の人々との交流により、新たな安全衛生の視点の取り込みや実績と成果の開示、そして災害防止への貢献方法の提言などを行い、これからのコンサルタントの3S（スピリット＝意識とスキルとステータス）向上に役立つよう、一人でも多くの方が参加して実践されることをお奨めします。

おめでとうございます 平成14年度中央労働災害防止協会表彰

緑十字賞

荒木 克己（千葉・土）

中野 渡 悟（青森・土）

福井 直大（大阪・機）

本橋 秀一郎（東京・化）

鳥谷 潤（福岡・保 本会推せん）

堀内 茂男（長野・工）

丹波 昭美（福岡・電）

藤原 正（福井・機・工）

三宅 貞夫（岡山・機・工）